

きぼう

令和8年9月29日(火)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
6年 学年便り 9月号

『物語』の価値は

9月11日(金)に6年1組、9月18日(金)に6年2組、9月24日(木)に6年3組の「つどい」がそれぞれ行われました。1組は、課題解決に向けて話し合い、よりよい学級にするために協力し合う様子を、2組は、学級のよさやともに支え合いながら活動できる学級風土を、3組は運動会の綱引きを題材にクラス目標について発表をしました。この素晴らしいつどいを創り上げるために、それぞれの学級で夏休み前から準備を進めてきました。意見がぶつかり合って台本がなかなか決まらなかったり、考えに考え抜いたアイデアがうまくいかなかったりするなど、話し合いに話し合いを重ね、それぞれの学級らしく困難に立ち向かい、それを乗り越えていったのだと思います。1組のある子の振り返りの中にこんな言葉がありました。

いろいろとつまづくこともあって、よく揉めることがあったけれど、その揉め事のおかげでよりよい「つどい」になったのではないかと思います。

意見をぶつかり合わせて話し合うことは、痛みを伴います。その苦しさに負けず、やり切ったことに達成感を得たのでしょう。学級全員が「何とかよりよいつどいにしたい」「思いが伝わるようにしたい」と、強い思いをもつがあまり、話し合いがまとまらない経験から、学級集団としての結論を出すことの難しさを味わったからこそ、全員で決めた結論に特別な価値が見出されたのかもしれません。

私は、1組にも2組にも3組にも、つどい当日を迎えるまでの「物語」があったんだと思います。つどいに込められた思い、思いを実現するためにどんな過程があったのか、その過程から何を学んだのか…これらのことは、それぞれの「物語」に携わった子どもにしかわからないことです。このつどい当日に至るまでの「物語」を経験してきたきぼうの子どもは、さらに大きく成長し、よりよい学級集団、学年集団になっていくと信じています。そして修学旅行や卒業に向けて「物語」をどんな物語にしていきたいのか。きぼうの子どもと共に、話し合いながら作り上げていくことを楽しみに思います。

さて、11月には修学旅行があります。実行委員の子どもと修学旅行の目標について話し合い、学年目標が「きぼうのきずな みんなが主役 全力で 一生の思い出を」に決まりました。また、コース別の研修のコースを決めたり、活動場所について調べたりするなど、修学旅行への取組も本格化していきます。確かに修学旅行は子どもにとって思い出作りや楽しみな活動という側面があるでしょう。そこからもう一歩踏み込んで、つどいでの取組と同じように、修学旅行の当日に向かうまでの学びの過程にこそ、大きな意味や価値があるのだと思います。修学旅行に向けての学びを、どの子どもにとっても思い出や楽しさだけにとどまらない「確かな学び」にしていきたいと考えています。ご家庭でも話題にしていたきながら、変わらぬご理解とご協力をいただければと思います。



修学旅行実施の目的

- 東京の首都機関や諸施設の見学・体験活動を通して、日本の政治、科学、歴史、文化等についての理解を深め、**今後の学習**に生かす。
- グループや学級・学年、一般の方など、**人とかがわりながら過ごす中**で自分の行動を見つめ、今後のよりよい生活へと生かす。
- 小学校6年間を**共に歩んできた仲間**との思い出をつくり、信頼関係をより確かなものにする。